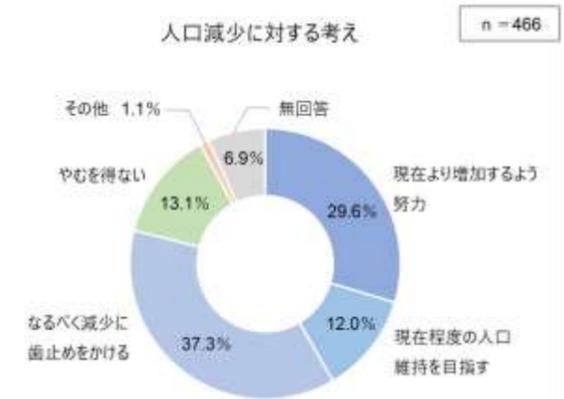
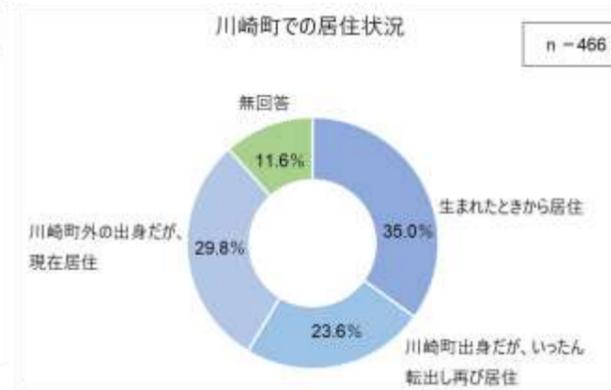
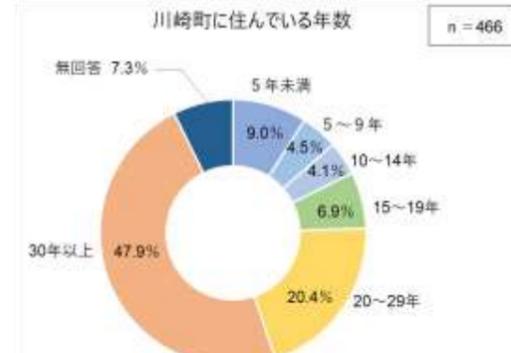
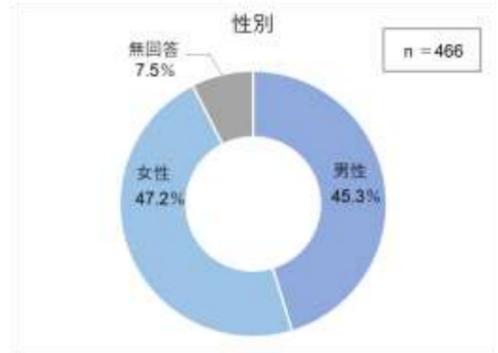


# 川崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略（概略版）

令和2年7月～8月において、川崎町に居住する18歳以上の町民1,600人を対象に実施。（配布件数：1,600件、回収件数：466件、回収率：29.1%）



## 職業

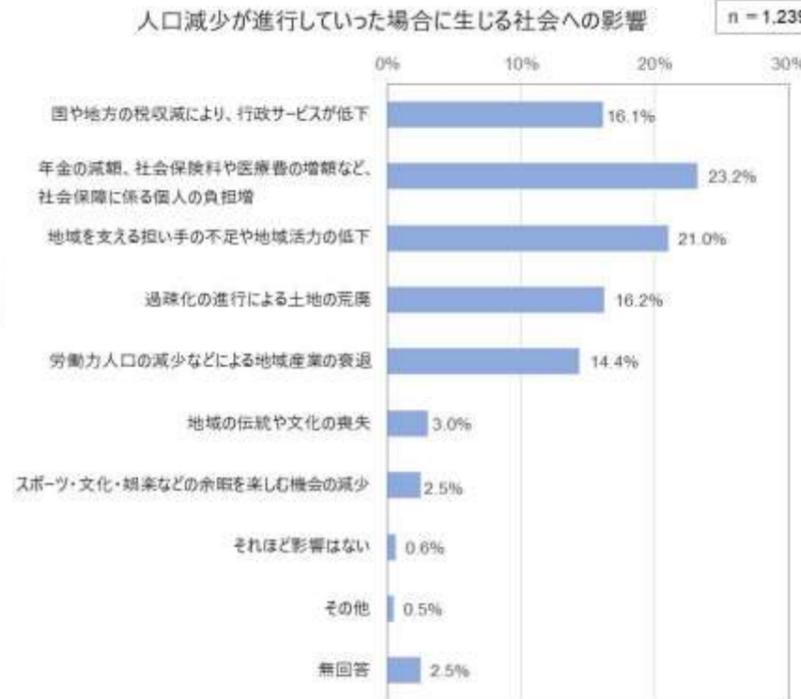
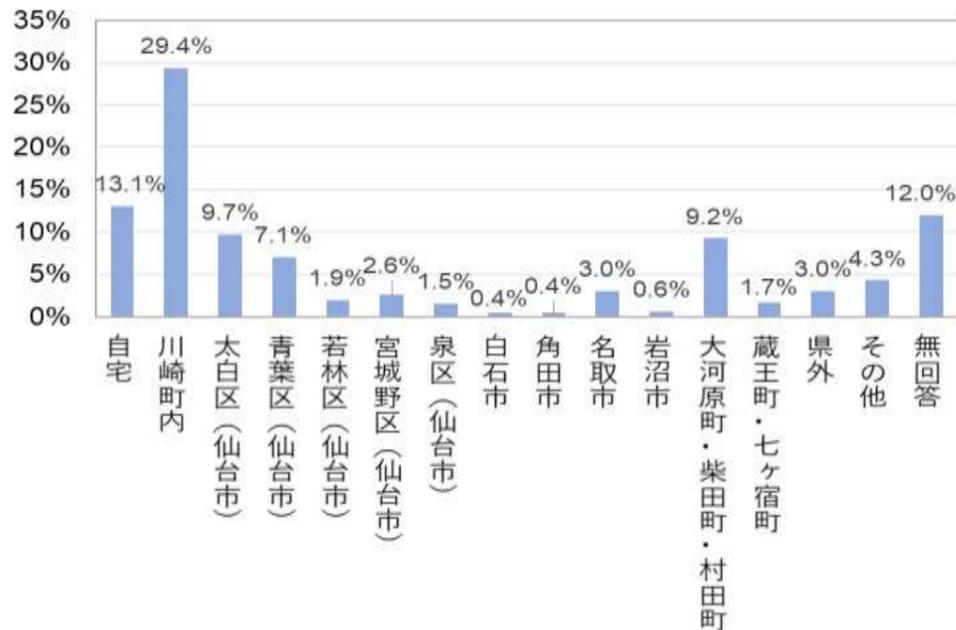


川崎町に住んでいる年数は、「30年以上」が最も多く（47.9%）、次いで「20～29年」（20.4%）、「5年未満」（9.0%）となっています。

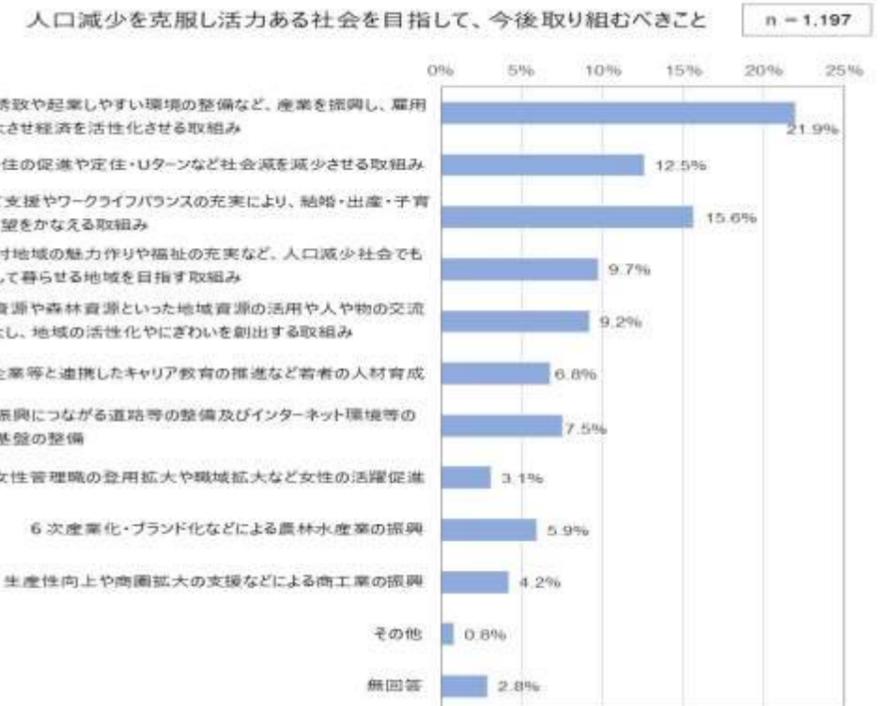
川崎町に「生まれたときから居住」している回答者は35.0%と最も多く、次いで「川崎町外の出身だが、現在居住」している回答者が29.8%、「川崎町出身だが、いったん転出し再び居住」している回答者が23.6%となっています。

人口減少について、「人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき」の回答が最も多く（37.3%）、続いて「人口減少は望ましくなく、現在より増加するよう努力すべき」（29.6%）、「人口減少はやむを得ない」（13.1%）となっています。

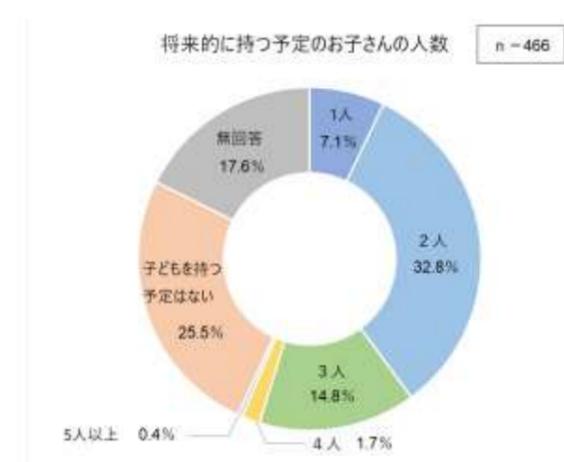
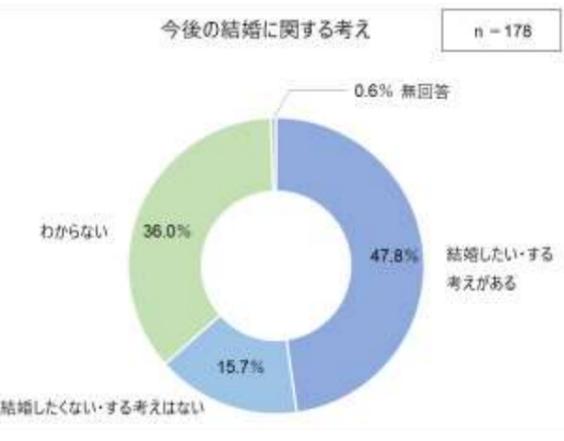
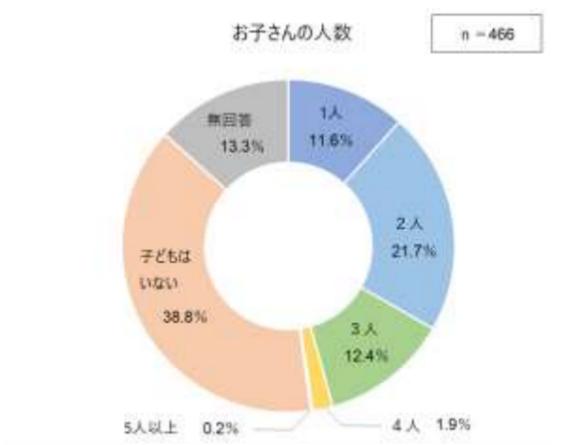
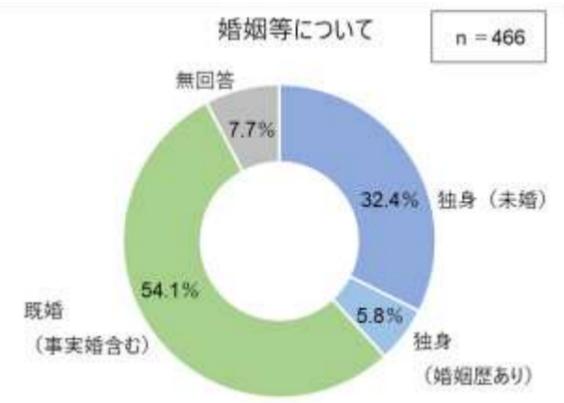
## 勤務地・通学先



人口減少に伴う社会への影響が大きいものとして、「年金の減額、社会保険料や医療費の増額など、社会保障に係る個人の負担増」が最も多く（23.2%）、次いで「地域を支える担い手の不足や地域活力の低下」（21.0%）、「過疎化の進行による土地の荒廃」（16.2%）となっています。

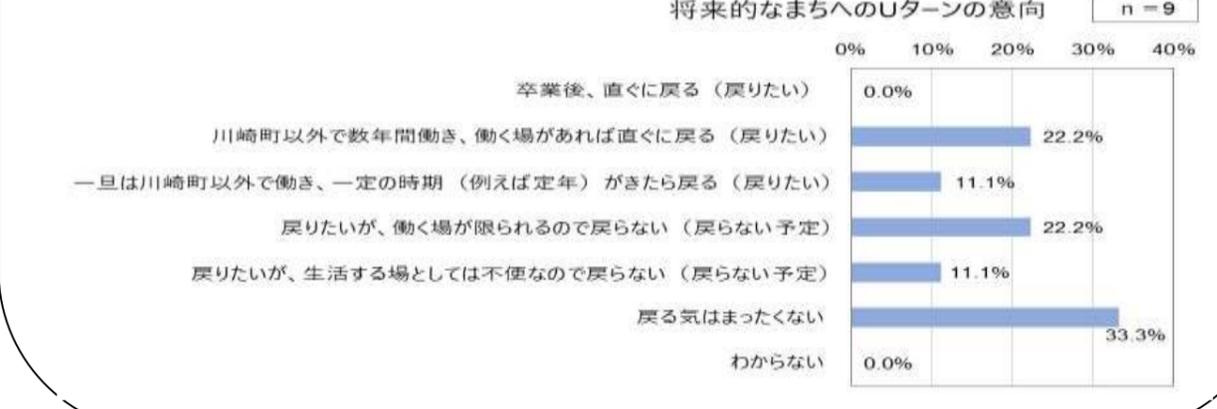


重視すべきこととして、「企業誘致や起業しやすい環境の整備など、産業を振興し、雇用を拡大させ経済を活性化させる取組み」が最も多く（21.9%）、次いで「子育て支援やワークライフバランスの充実により、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組み」（15.6%）、「移住の促進や定住・Uターンなど社会減を減少させる取組み」（12.5%）となっています。



出産や子育てにおいて不安に思うこと等として、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も多く (26.0%)、次いで「子育てと仕事の両立」(21.7%)、「体力的・年齢的な不安」(10.9%) となっています。

## 学生対象アンケート



## 自由意見

番号	年齢	内容
1	20代	若い年代への支援が充実していれば、出ていく人は少なくなる。もっと若い年代の意見を取り入れるべきだと思う。
2	20代	結婚して川崎に嫁いできました。今年に入り子どもが生まれ、楽しく過ごさせて頂いています。川崎町の子育て支援にはとても助かっています。ですが、川崎に来るまでは子育て支援の充実がこんなにあるのは、全然知りませんでした。もっと他の地域や他県に支援の充実をPRしてもよいのでは？と考えています。少子化の現代で、産みたくても産めない人もいます。そうゆう方にとっても子育て支援は有難いものです。そこをもっとPRしていけば子育て世代の移住につながるのではと思います。
3	30代	若い世代はどうしても利便性に特化して住まいを決めてしまいがちのため、福利厚生や子育てに適した土地、環境であるということのPRにもっと力を入れるべきだと思う。仙台からのアクセスも、車やバスはもちろんだがJRなどあれば尚、移住者が増えるように思う。
4	30代	人口減少を止めたいのであればこの度のコロナウイルスの問題で都会に住む事は危険と思う層を招き入れる。それによって町民への影響も考えられるが、今回のコロナ危機は一つのチャンスとも見える。
5	30代	働く場所がある→住みやすい→子育てしやすい→お出かけしやすい 言葉では簡単なんですけど、実際は難しいですよ。川崎の人口が増えると良いなあと思います。他の市町村の良い所は、マネして、他とは違う革新的な事があれば良いですよ。私は川崎が好きなので、アイデアがあれば、お手紙を書きたいと思います。
6	40代	安定した給料をもらえる、就職場を置く事で、少しでも地元に残り、在住してもらえる町にしていきたい。
7	50代	川崎は災害の少ないとてもいい町だと思います。町に移住して、住んでいる方は町の力になってくれている方が多いと思います。そのような方々と協力して、より良い魅力ある、町作りをして頂きたい。